女子大学生の骨格筋量の低下に影響する因子の解析

吉本好延*[,1)]、濵岡克伺[2)]
[1)]聖隷クリストファー大学、[2)]大阪行岡医療大学

【目的】
本研究の目的は、女子大学生を対象に生活習慣や精神・心理的因子など多角的な視点で骨格筋量を低下させる危険因子を明らかにすることであった。

【方法】
対象は、18 歳以上の女子大学生 60 名（平均年齢 20.70±0.944 歳）であった。骨格筋量の評価は、体組成計（大和製衡株式会社 Yamato 体組成計 DF870K)を使用した。骨格筋量を低下させる危険因子の調査は、国際標準化身体活動質問票（International Physical Activity Questionnaire; IPAQ)、タンパク質摂取量、Eating Attitudes Test-26（EAT-26)、Self-rating Depression Scale（SDS）を調査した。
統計解析は、骨格筋量を目的変数、上記 4 因子を説明変数として、強制投入法による重回帰分析を行った。有意水準は 5%とした。

【結果】
重回帰分析による標準化係数は、それぞれ IPAQ（高身体活動以外 0・高身体活動 1 に分類）は 0.171（p=0.196)、タンパク質摂取量は 0.215(p=0.11)、EAT-26 は-0.252(p=0.173)、SDS は-0.02(p=0.912)であり有意な関連性を認めなかったが、タンパク質摂取量や EAT-26 は有意水準に近似値を認めていた。

【考察】
本結果では、女子大学生の骨格筋量と IPAQ・タンパク質摂取量・EAT-26・SDS との関連性は認められなかったが、タンパク質摂取量や EAT-26 は有意水準に近似値を認めていた。タンパク質摂取量や摂食態度は、対象者数を増加させることで骨格筋量と関連性を認める可能性が高いと考えられた。

【倫理審査および利益相反】
本研究は聖隷クリストファー大学の倫理審査委で承認を得た。研究対象者には紙面および口頭で、研究目的、研究方法、倫理的配慮事項および安全性などについて事前に説明し同意を得た。利益相反はない。

【学会発表】なし

【論文発表の状況】なし

倫理審査	■承認番号（21018）□該当しない
利益相反	■なし　　□あり（　　）